

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

1、字句＝宇宙

2、形式＝半紙タテ使用。中央に「宇宙」と臨書し、左余白に「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観＝懷素の書として伝えられているものは、意外と多いが、なかでも、「小草千字文」と「自叙帖」は懷素の代表作といえる。

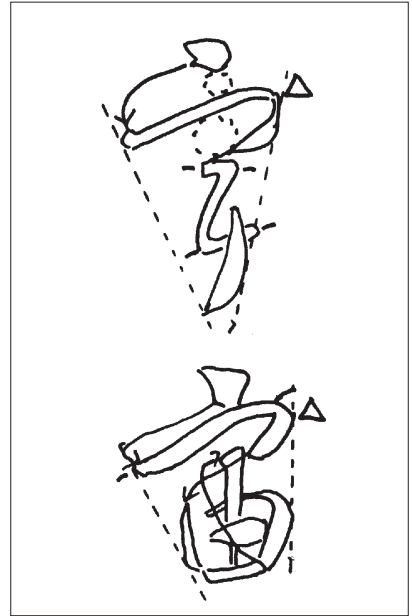
千字文は「小草千字文」ともいい、また一字一金の價があるとして「千金帖」とも呼ばれている。

しかし、兩帖の書風はあまりにも違う。「自叙帖」が四十一才の作で、「千金帖」が六十三才の作と伝えられているが、「自叙帖」は酔いにまかせ、興に乗って早書きされたと言われ、狂草といわれている。「千金帖」は平勢に淡々と書かれたものという。

4、各字のポイント

宇 一画目の点は強く。「↓」は意連。余白をとって二画目へ。△で筆の面を変える。後押し、引き上げて次画へ。「于」の一画目右下がり、二画目を右上がりに。

宙 一画目の点強く入筆し下へ動く。二画目は右肩を大きく上げ点に接するようにし、△で面を変える。「由」の一画目下すばまりにし、二画目の横画は細線にて、転折から押ししてゆき、三画目に意連。三画目の縦画は、前画を受け蔵鋒にて入り、筆を引き上げながら鋒先で立ち上がる。四画目は脹よかに。



草書千字文 唐 懷素

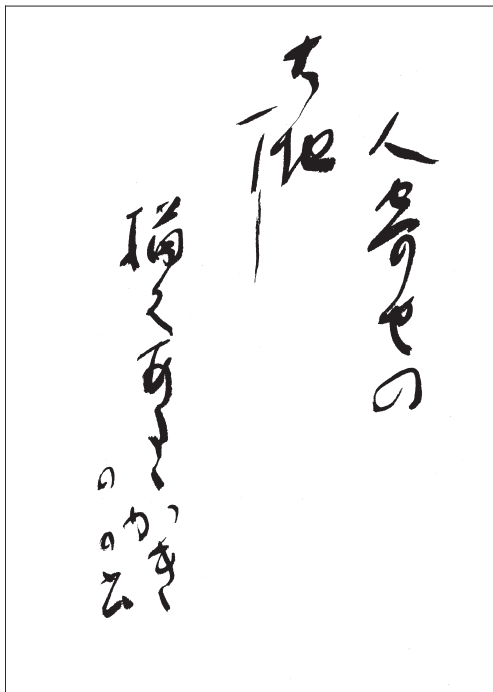
昇試第三部 (漢字・かな) 予告 (三月二十二日締切)

平岡華雪先生書 硯田悪戯無く「酒国長春有り」(唐庚)



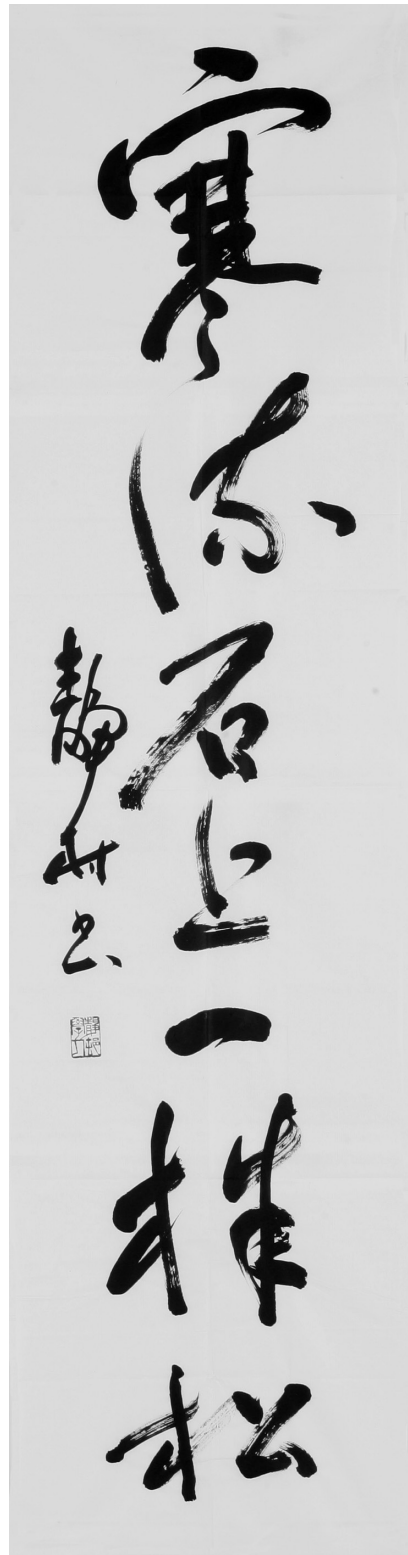
訳：同じ田といっても硯の田には饑饉はない。国にも種々あるが酒国は常春である。

平岡華雪先生書 人寄せの大地に描く暖き(虚子)



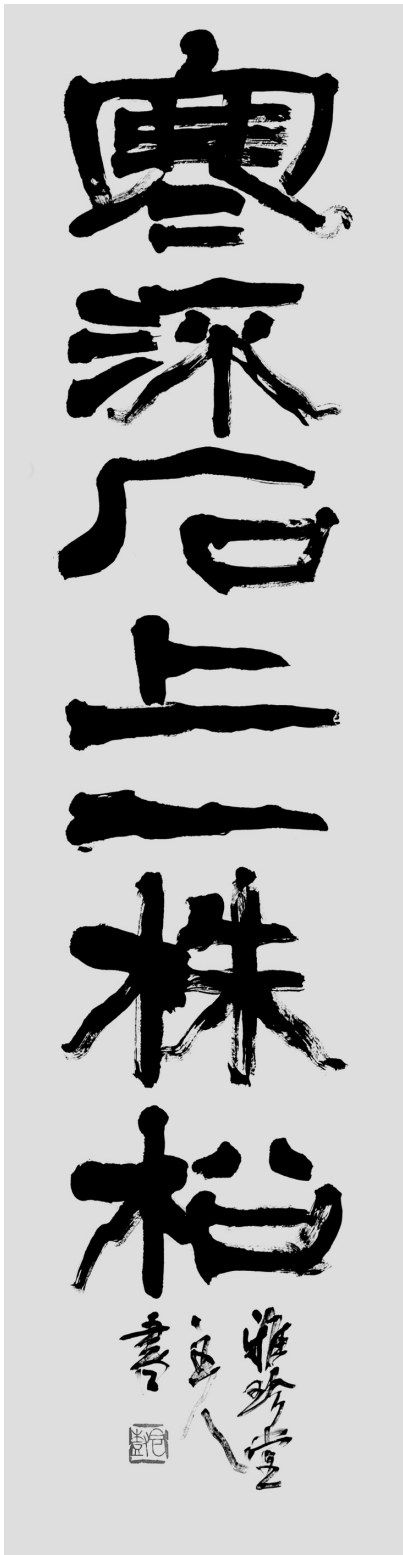
A  
鈴木静村先生書

寒流石上一株松（禅語）  
かんりゅううせきじょう いっしゆまつ  
寒流石上、一株の松。



B  
高橋香樹会长書

筆路明快と画の放ち 墨継ぎは詩句構成からして、五字目が一般的。この句の場合も、「上」で意味が切れ「一株の松」に移っています。残り三字の場合を意識しての墨継ぎ。適量の墨ということ。他の留意点として、筆路の明快です。特に点画の「放し方」。例えば、「石上」「松」の放し方に注目してみてください。



今回は隷書としました。隷書といっても、曹全碑を代表とするような八分隷ではなく、磨崖碑の隷書などに見られる八分を極力おさえた形としました。「流」は隷書ではこの形よく見られます。草書で三水に「不」の形があるのもこの隷書からきているのではないのでしょうか。

訳：きびしい寒さの中に、堪え忍び生育しつづける松に思いを馳せた名句。

予告 昇試第一部漢字（三月二十二日締切）

春塘雨過波紋亂

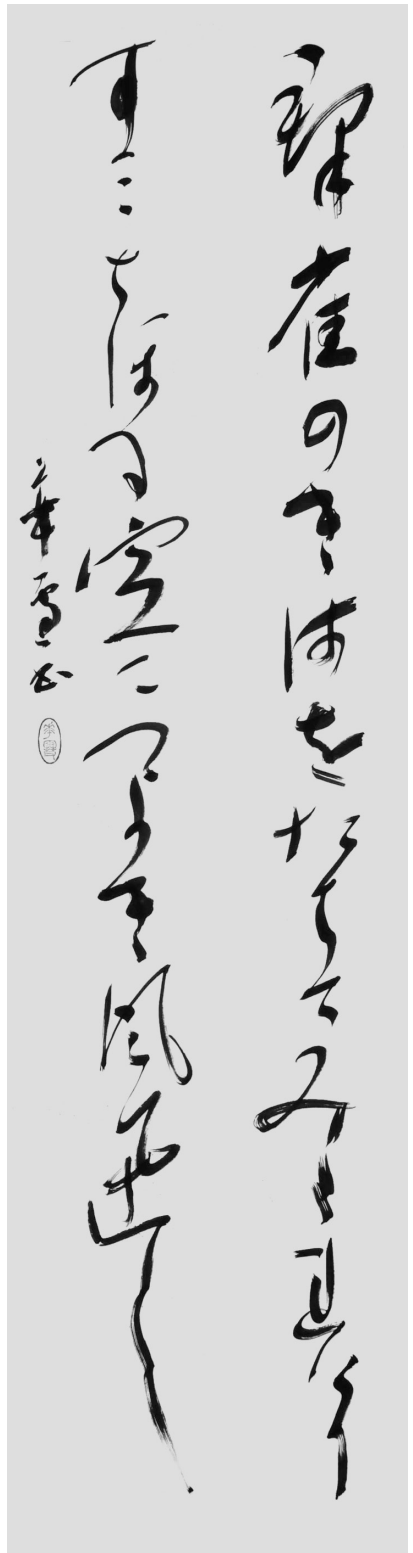
花塢風回蝶翅香（袁宏道）

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

A

平岡華雪先生書

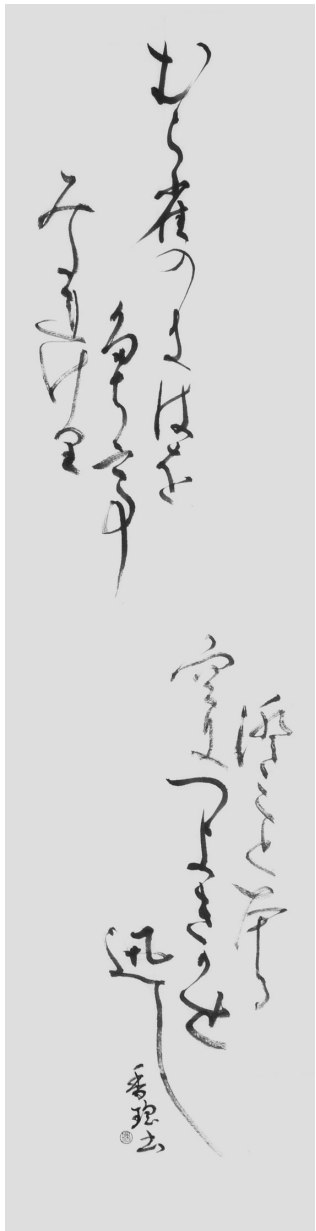
群雀むらすずめのみさぎ檐端をたちてみだれけり澄み徹る空に強き風とほ迅し(吉野秀雄)



B

内藤香瑶先生書

むら雀の支さはを多たち亭てみ多たれけり澄三と本ほんる空くう尔川にっよき可かせ迅じんし



学び方

半切を左上、右下の二群に分け余白を広く取りました。「星 月 雲」などの文字は行頭に置きたくなるので、右下ではありますが、澄みきった「空」を表したく行頭に書いてみました。

吉野秀雄 (一九〇二～一九六七) 歌人  
群馬県高崎市の生まれ。病弱で生涯の多くを病床で過ごす。会津八一に師事。正岡子規、伊藤左千夫らのアラragi派の作風に傾倒。文体の骨格や語彙に万葉集の影響を強く受ける。「早梅集」ほか歌集多数。また良寛の研究、著書も多い。

予告 昇試第一部かな(三月二十二日締切)

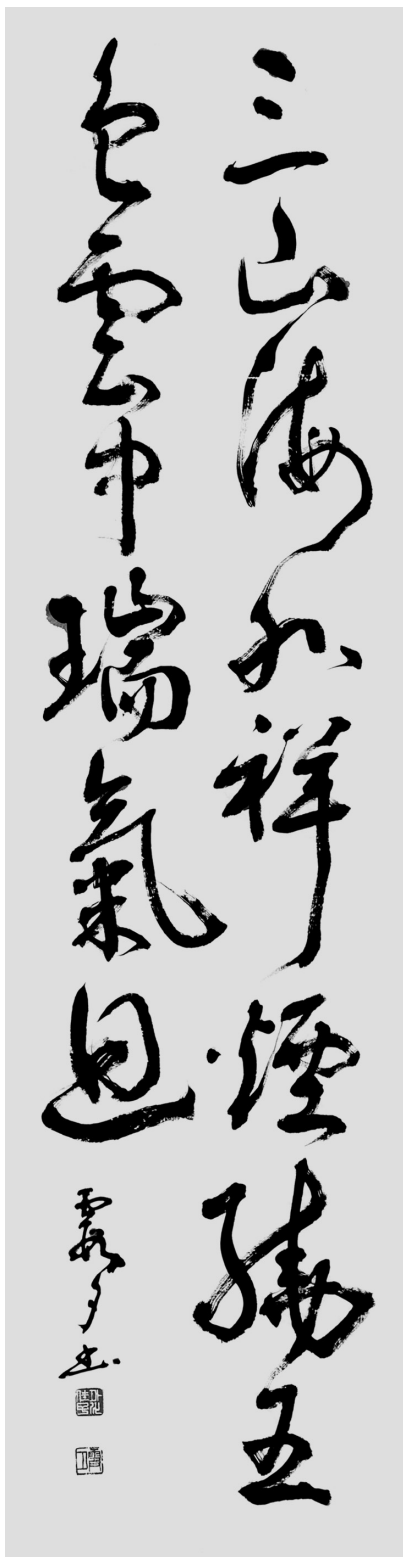
朝の日の窓にうすしと思ひしは春雨晴れてもやの立つなり(島木赤彦)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条 幅 部 随 意 参 考

外川霞夕先生書

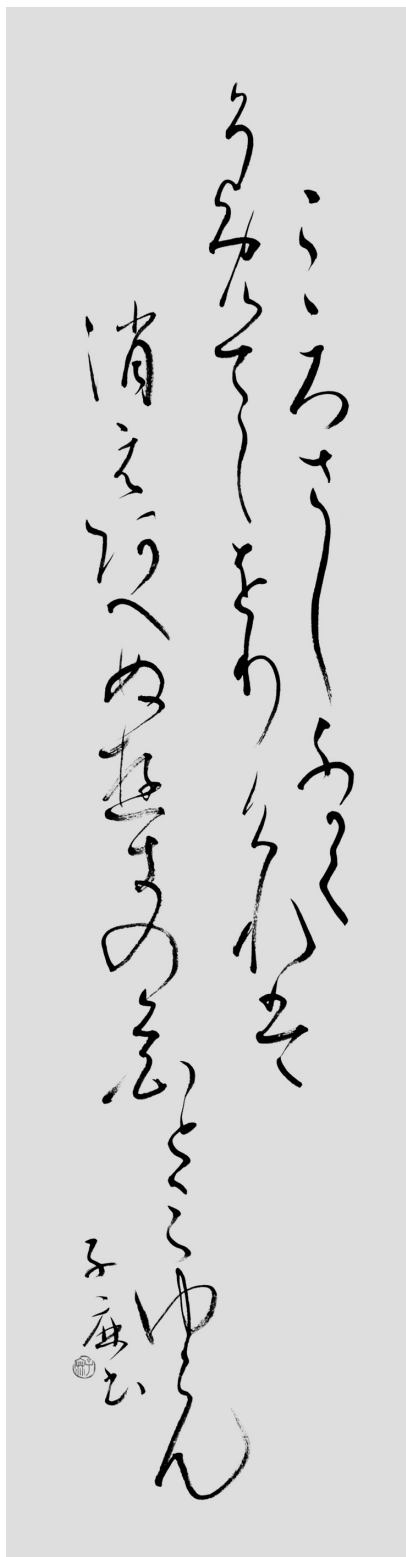
三山海外祥煙繞。五色雲中瑞氣廻。(廖道南)  
さんざんかいがいしょうえんめく さんざんかいがいしょうえんめく 五色雲中瑞氣廻。五色雲中瑞氣廻る。



訳：海上に在るといふ三神山にほめてたい雲がたなびき、五彩の雲のたなびく処にもまためでたい気がめぐっている。

林子麻先生書

心ざしふかく染めてしをりければ消えあへぬ雪の花とみゆらん(古今和歌集 よみ人しらず)  
 こころさしふ可久曾免てしを利介れ盤消え阿へぬ遊支の花と三ゆらん



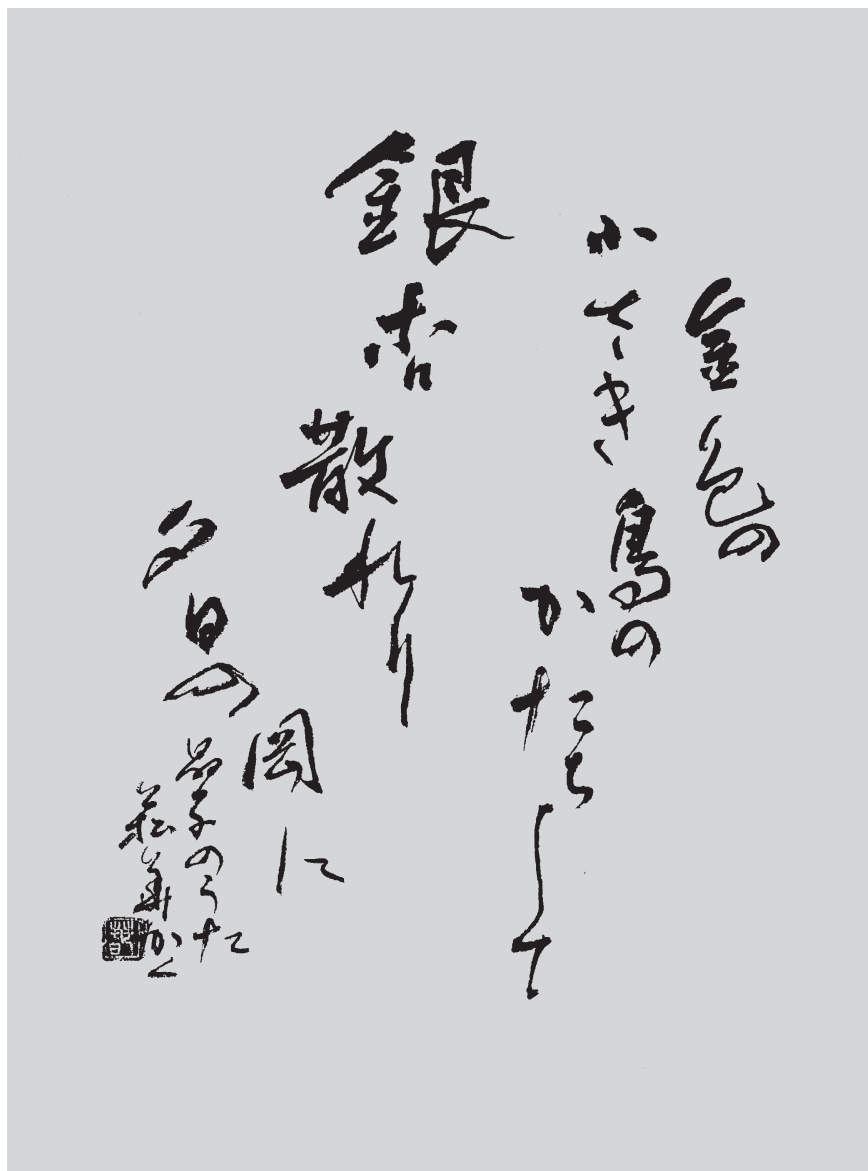
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

小暮 菘華 先生 書

金色の小さき鳥のかたちして  
銀杏散れり夕日の岡に

与謝野晶子

短歌一首を、各行三句までは左方向に、四、五句は逆の右方向に流し、中央部の空間を生かす構成です。山場の「銀杏散れり」は大きく放ち書きにしました。手本はあくまでも参考とし、手本から離れ、独自性を打ち出して下さい。皆さまの作品を楽しみにしています。



与謝野晶子（一八七八～一九四二）本名鳳志よう。大阪堺市の和菓子商の三女。堺市立堺女学校技芸科卒。歌人、作家。夫は与謝野鉄幹。雑誌「明星」に短歌を発表しロマン主義文学の中心的人物となった。代表作「みだれ髪」「君死にたまふことなかれ」はじめ、歌集多数。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

新陽故陰を改む(謝靈運)  
訳:冬が去って春が来る。



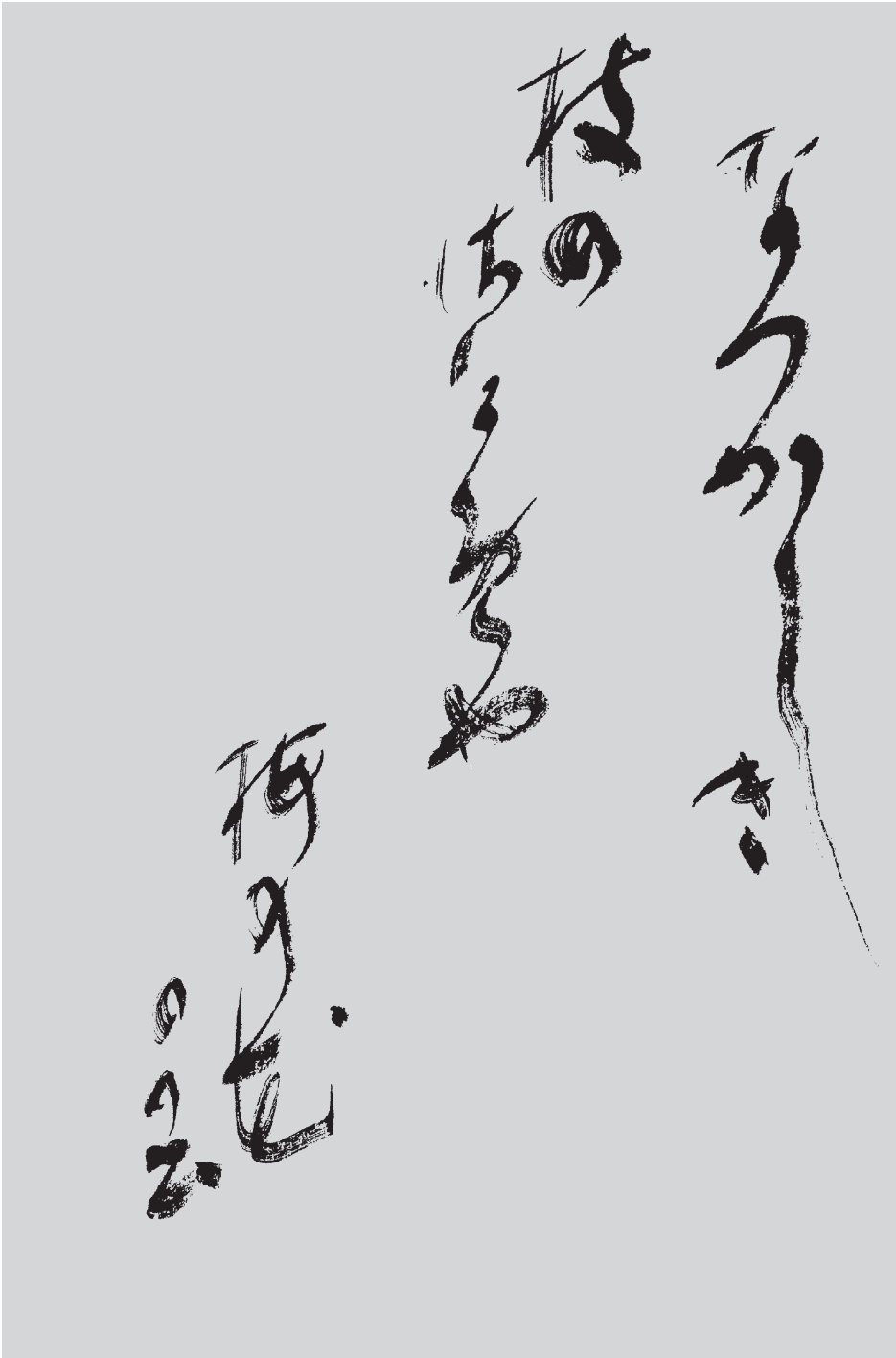
〔タテ画、右払をピリッと〕  
「新陽故陰」には、タテ画が含まれています。これらは迷いなく決めたい。くり返し練習を。「改故陰」の右払い、これまた中心画、のびやかさに留意して成功させてほしい。特に「改」は右端がはみ出さないように。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

なつかしき枝のさけ目や梅の花(其角)  
なつかしき枝の佐介免や梅の花



〈初歩段階・変体がなについて〉

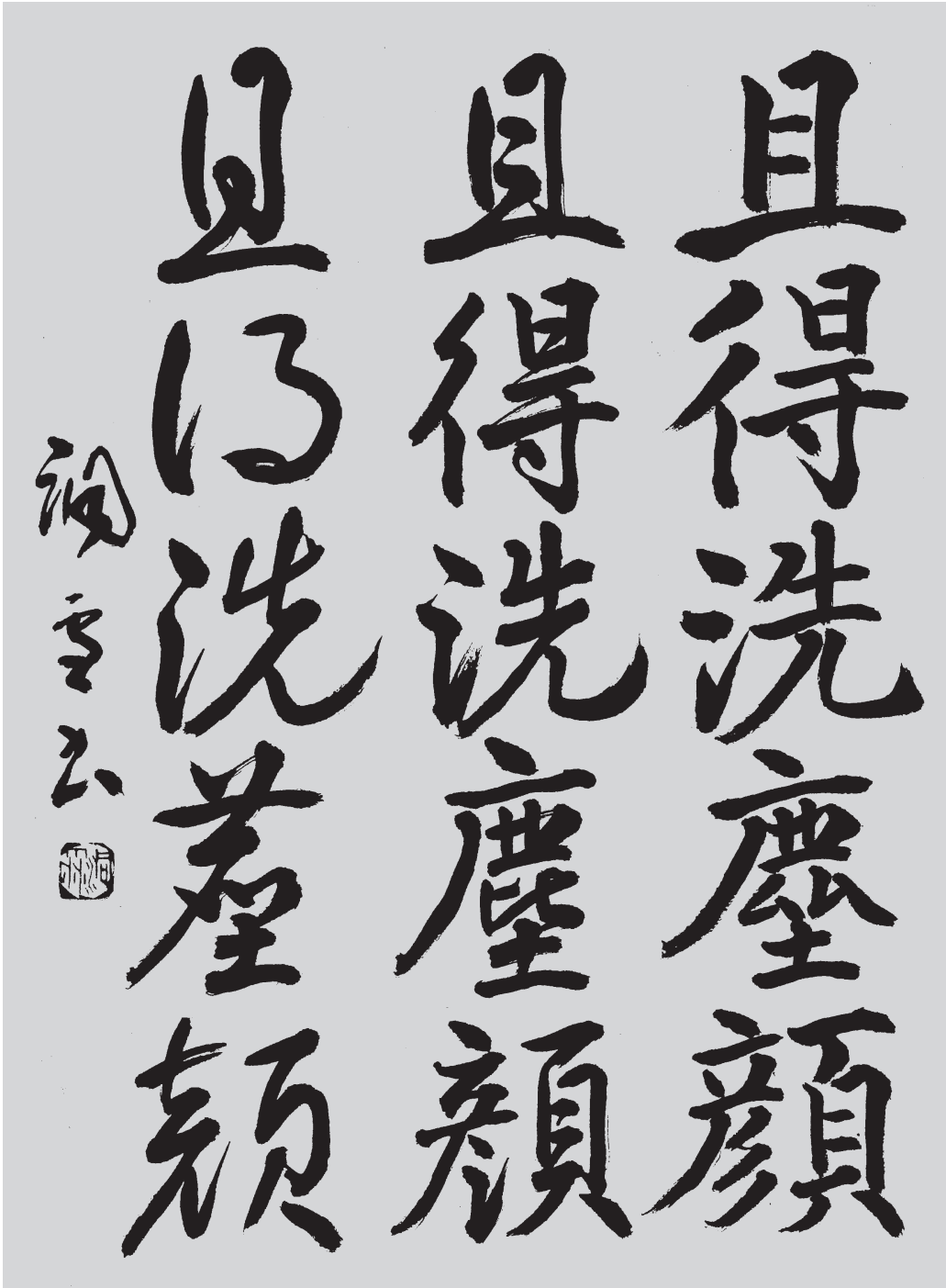
かな半紙の選評で毎回指摘されるその一つに変体がない不的確がある。不的確とは字形を明確に把握されないまま、はつきりと理解せずに書いているためか。筆意に甘さが見られ消化されていない。今月も「佐、介、免」が連続している。字典参考に形・意とも消化させてほしい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

加藤 洞 雪 先 生 書

且得洗塵顔(李白)  
且かつ得えたり 塵じん顔がんを洗あらうを



訳：そのうえ、俗塵によこれた顔を、洗い清めることもできるのだ。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。



随 意 部 参 考

訳：多くの物事が調和す。



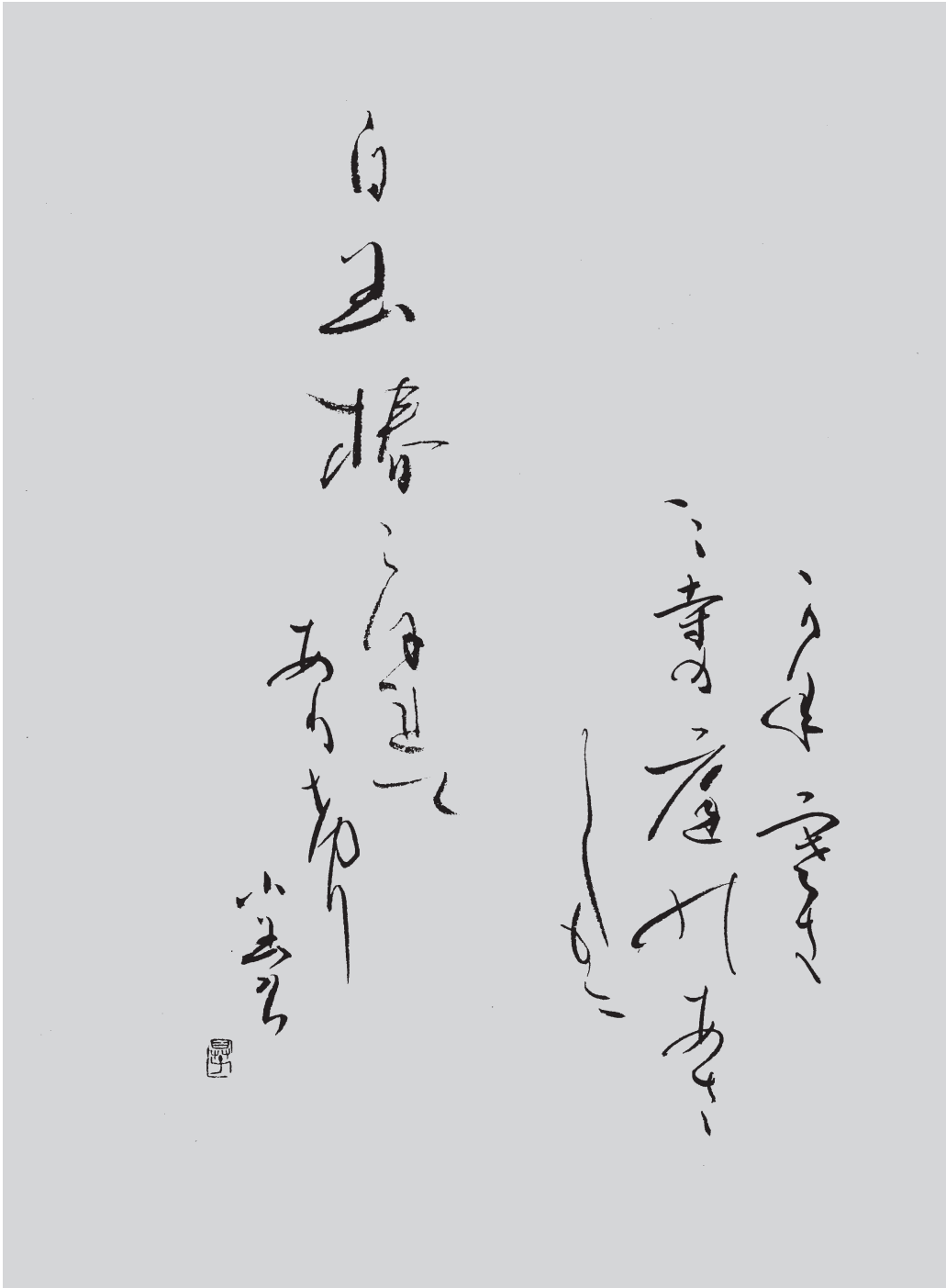
福 田 香 陽 先 生 書

百事諧  
ひゃくじしあはる  
百事諧う。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

高山小玉先生書

鐘寒<sup>かねさむ</sup>きみ寺<sup>てら</sup>の庭<sup>には</sup>の朝霜<sup>あさしも</sup>に白玉椿<sup>しらたまつばき</sup>こぼれてありけり(太田水穂)  
可<sup>かね</sup>年寒支<sup>さきみ</sup>三寺<sup>み</sup>の庭能<sup>には</sup>あさしも二<sup>に</sup>白玉椿<sup>しらたまつばき</sup>こ保連<sup>はれ</sup>てあり希<sup>けり</sup>



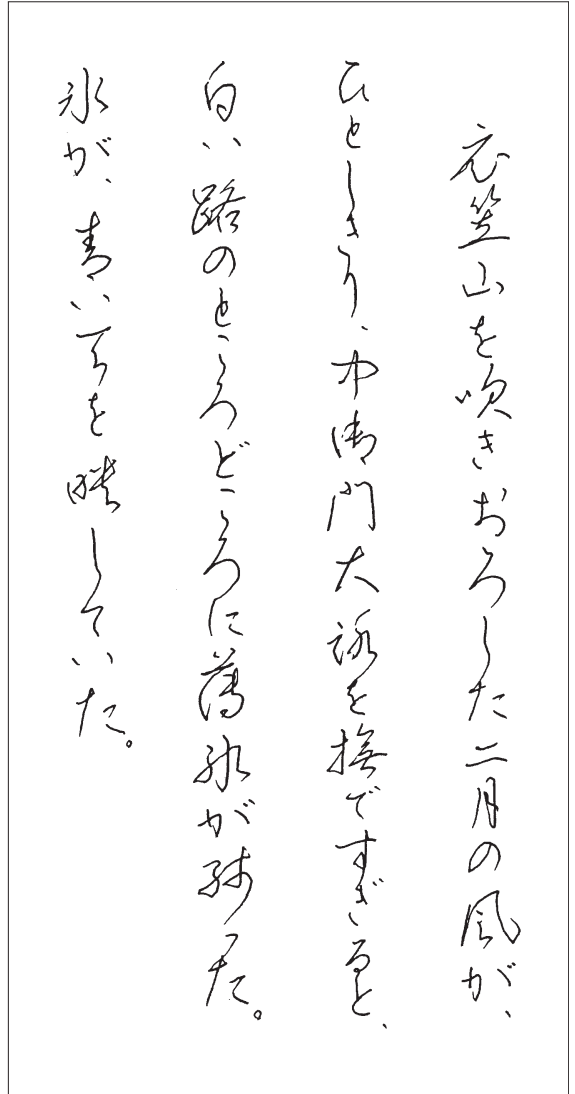
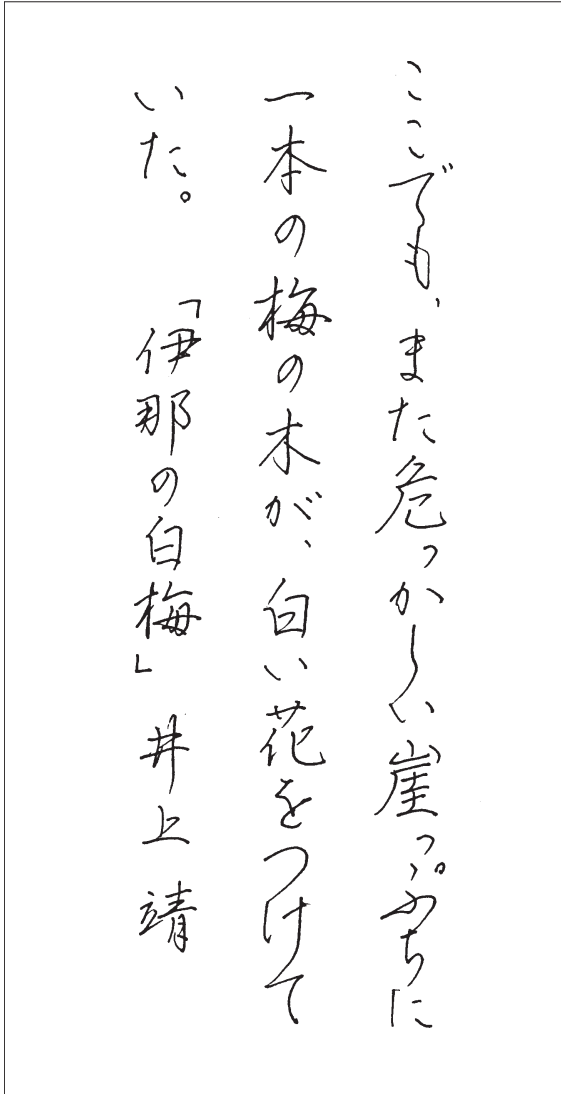
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

衣笠山を吹きおろした二月の風が、ひとしきり、中御門大路を撫ですぎると、白い路のところどころに薄氷が残った。氷が、青い天を映していた。

「外法伝」司馬遼太郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

ここでも、また危っかしい崖っぶちに一本の梅の木が、白い花をつけていた。「伊那の白梅」井上靖